

**みんなで作ろう！  
セーフコミュニティちちぶ  
子どもの安全対策委員会  
活動報告**



**発表者：委員長 川田哲也  
所 属：花の木小学校PTA**

# 子どもの安全対策委員会設置の背景

①乳幼児の自宅での転倒・転落による救急搬送が多い状況にある。

 背景①

②小・中学生のケガが多く発生している。

 背景②

③子どもの自転車運転中の外傷が多い。

 背景③

④全国的にいじめの認知件数が増加する状況にある。

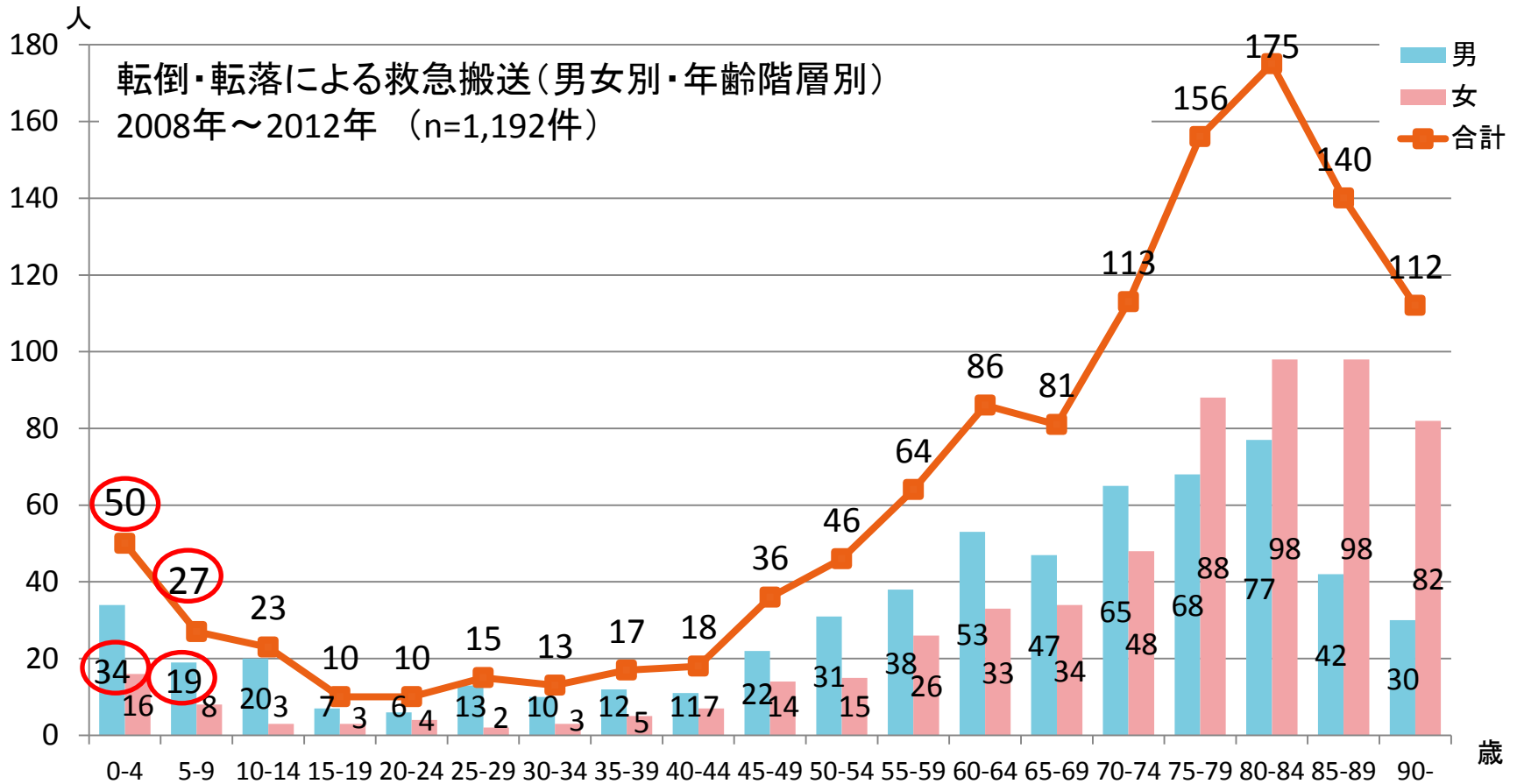
 背景④

# 対策委員会設置の背景 ①

## 転倒・転落による救急搬送件数

未就学児童は、「転倒・転落」による救急搬送件数が多くなっています。また、男児のケガの件数が多くなっています。

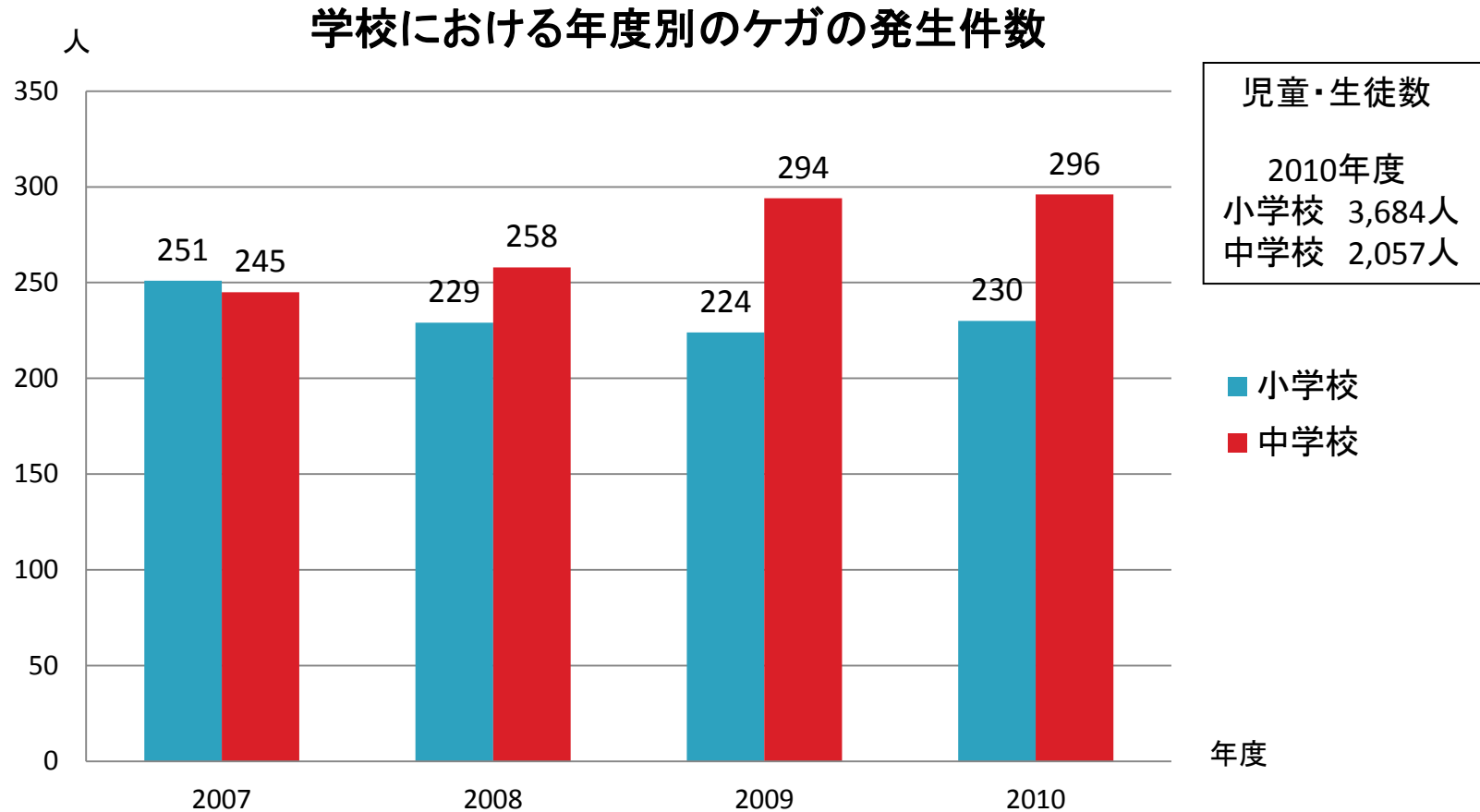
図1



# 対策委員会設置の背景 ②

小学校・中学校とも、毎年度200件以上のケガが発生しています。特に中学校では、ケガの発生件数が増加しています。

図2



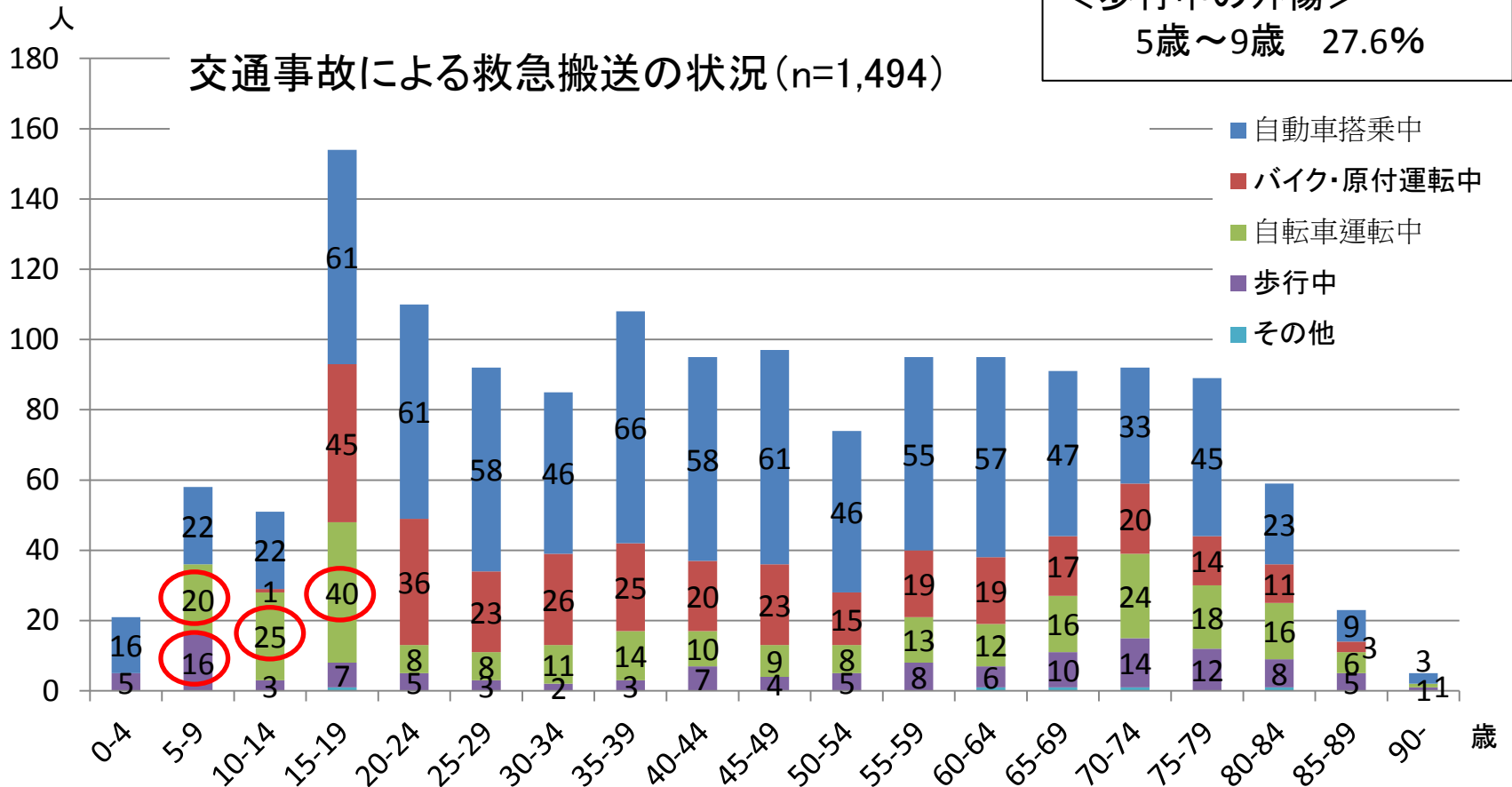
出典：日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度～2010年度)

# 対策委員会設置の背景 ③

5歳から19歳の子どもは、他の世代に比べて「自転車  
運転中の外傷」が多い。(全体平均:17.3%)

＜自転車運転中の外傷＞  
 5歳～9歳 34.5%  
 10歳～14歳 49.0%  
 15歳～19歳 26.1%  
 ＜歩行中の外傷＞  
 5歳～9歳 27.6%

図3



出典: 救急搬送データ(2008年～2012年)

# 対策委員会設置の背景 ④

## ネットトラブル・いじめの認知状況

### ○ネットトラブル

2012年度 小学校が2件、中学校が13件(中学校で急増)。

### ○いじめの認知件数

2012年度 小学校が47件、中学校が85件(小・中学校とも急増)。

図4-1

ネットトラブルの報告件数

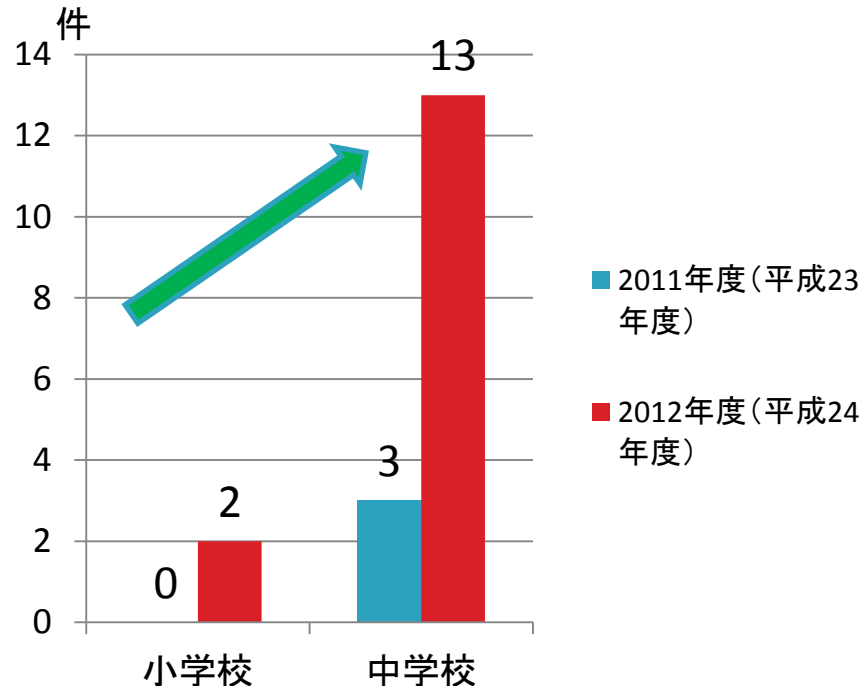
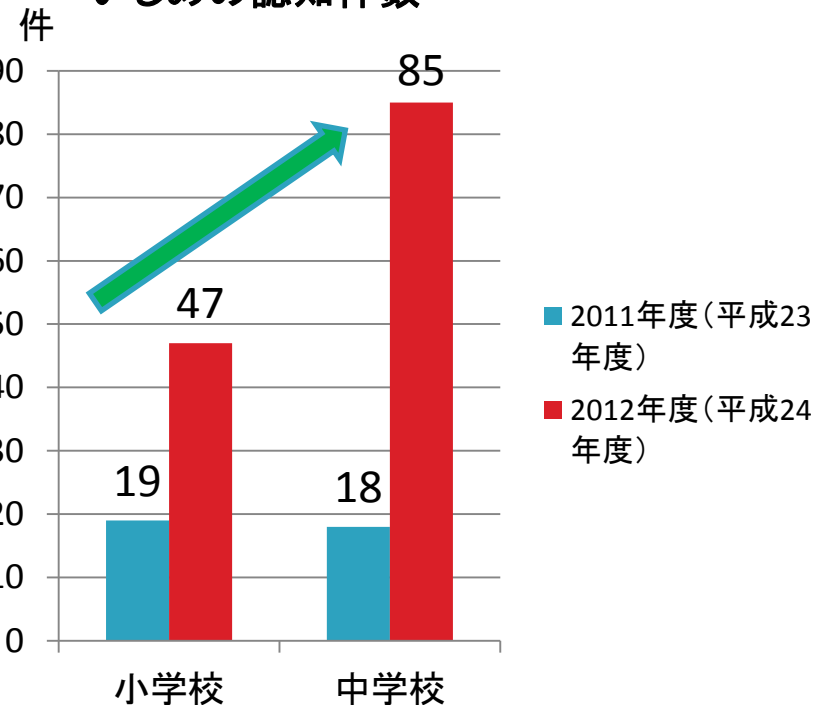


図4-2

いじめの認知件数



# 子どもの安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (6)	秩父市町会長協議会	1名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	PTA	3名
	私立幼稚園連合会	1名
教育機関 (4)	学校	3名
	保育所	1名
行政機関 (4)	秩父警察署	1名
	秩父市(こども課、教育研究所、公募職員)	3名

# 子どもの安全対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ (主観的な課題抽出)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ (データから見る課題抽出)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月29日	方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月27日	重点課題に対する取組みの検討



# 秩父市の現状

## 【ワークショップによる主観的な意見】

- ・部活動中のケガ・事故が常に心配の種である。
- ・子どもの自転車の飛び出しが危ない。
- ・自転車の二人乗りをしている子どもがいる。
- ・携帯電話(スマホ)によるトラブルやいじめが心配である。

## 【データからみた客観的な危険】

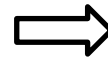
- ・子どもの自宅での転倒・転落による救急搬送が多い。 図1・図5・図6・表1
- ・子どもは、自転車や歩行時の事故が多い。 図3
- ・小・中学校で、多くのケガが発生している。 図2
- ・小学校では、休み時間のケガが最も多い。 図7
- ・中学校では、体育的部活動でのケガが最も多い。 図7
- ・小学校における場所別のケガの発生状況は、運動場・校庭が最も多い。 図8
- ・小・中学校とも、球技の時のケガの割合が最も多い。 図9
- ・いじめの相談件数が増加している。 図4-1・図4-2

# 地域診断① ワークショップでの検討

2回にわたるワークショップにより、主観的な課題と客観的な課題の抽出作業を行いました。



各委員が数多くの意見を出し合いました。



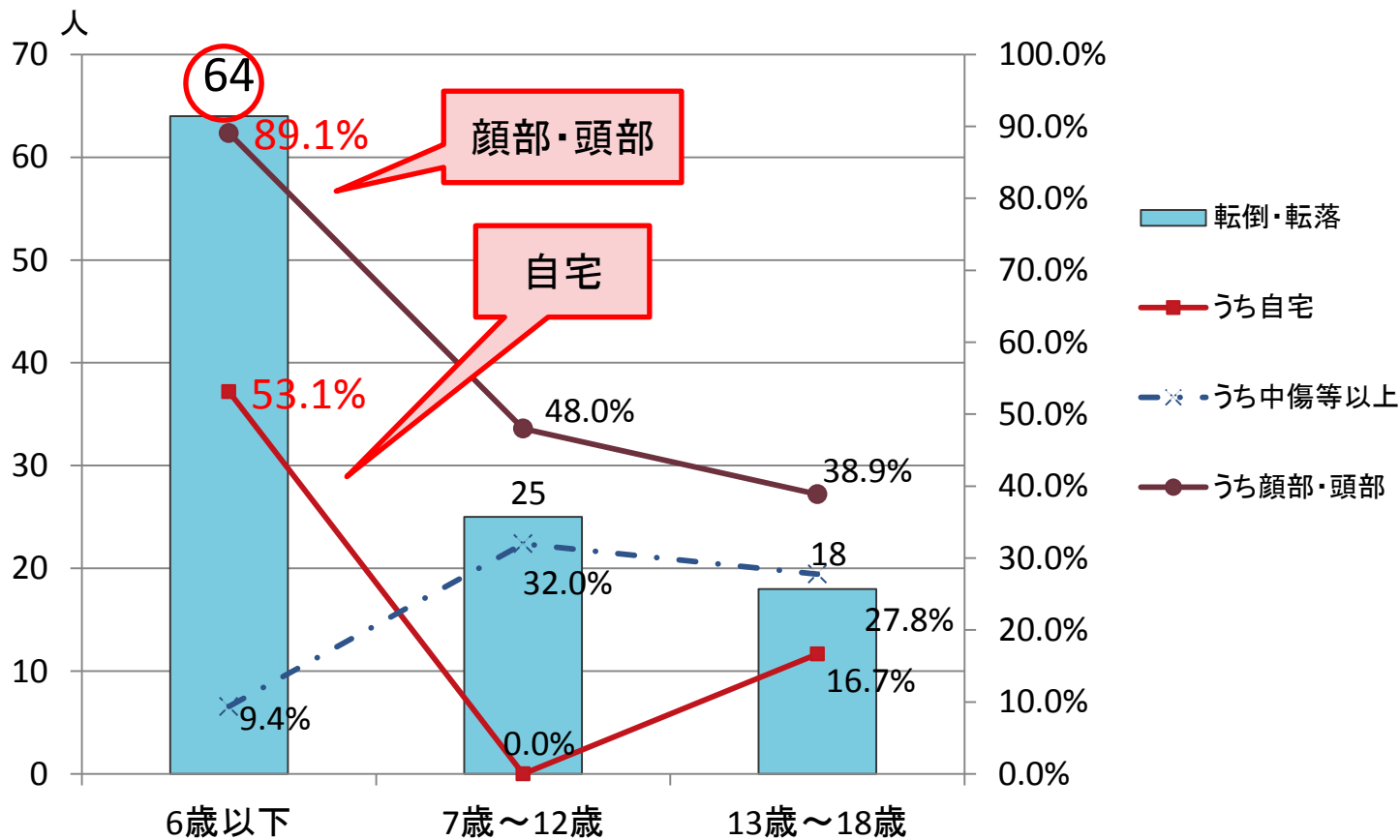
ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。

# 地域診断② データからみた客観的な危険(1)

## 乳幼児の転倒・転落によるケガ

6歳以下の乳幼児が、「転倒・転落」により受傷している件数が64件ありました。乳幼児は、自宅で転倒するケースが約半数を占めています。

図5



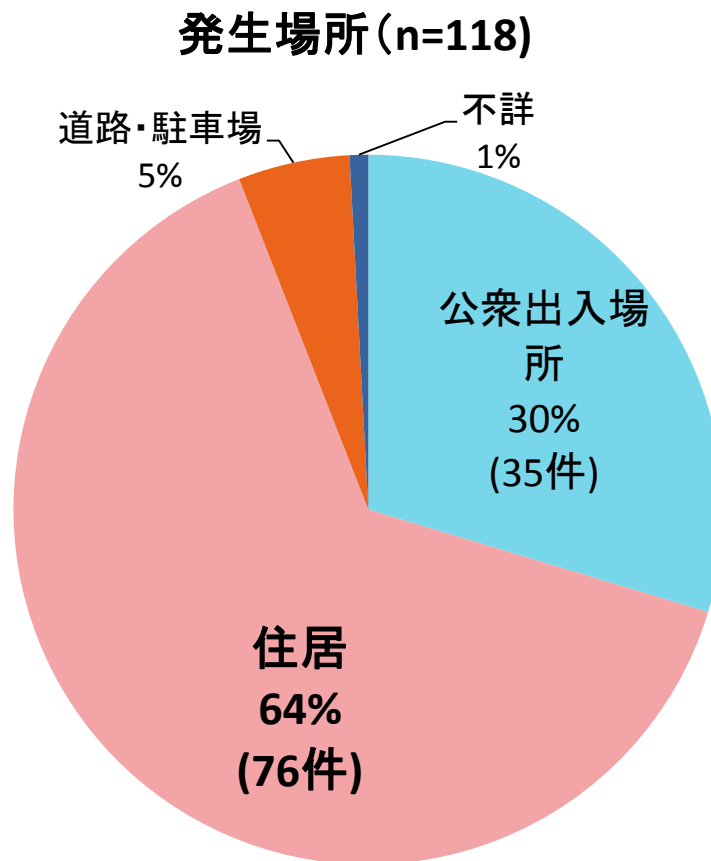
出典: 救急搬送データ(2008年~2012年)

# データからみた客観的な危険(2)

## 乳幼児によるケガの発生場所

6歳以下の乳幼児におけるケガの発生場所は、「住居」が最も多く、全体の64%を占めています。

図6



# データからみた客観的な危険(3)

## 乳幼児の一般負傷の要因

6歳以下の乳幼児が、「転倒・転落」により受傷している件数は64件。  
 自宅で転倒するケースが約半数を占めています。

表1

子ども(0歳～6歳)の「一般負傷」の要因									
	鋭利なものとの接触	挟まれ・巻き込まれ	誤嚥による窒息	衝突・接触	転倒	転落	その他	不詳	合計
公衆出入場所	0	2	1	3	8	17	3	1	35
教育施設(幼稚園等)			1		1	3			5
商業施設(スーパー・コンビニ・量販店等)					1	4		1	6
余暇・スポーツ施設				2	4	6	2		14
公共交通(駅・電車・バス等)		1			1	1			3
その他		1		1	1	3	1		7
住居	6	7	7	8	11	24	10	3	76
自宅(屋内)	6	5	7	8	9	18	10	3	66
自宅(屋外)		2			1	6			9
知人宅(屋内)					1				1
道路・駐車場		1			3	1	1		6
不詳								1	1
合計	6	10	8	11	22	42	8	5	118

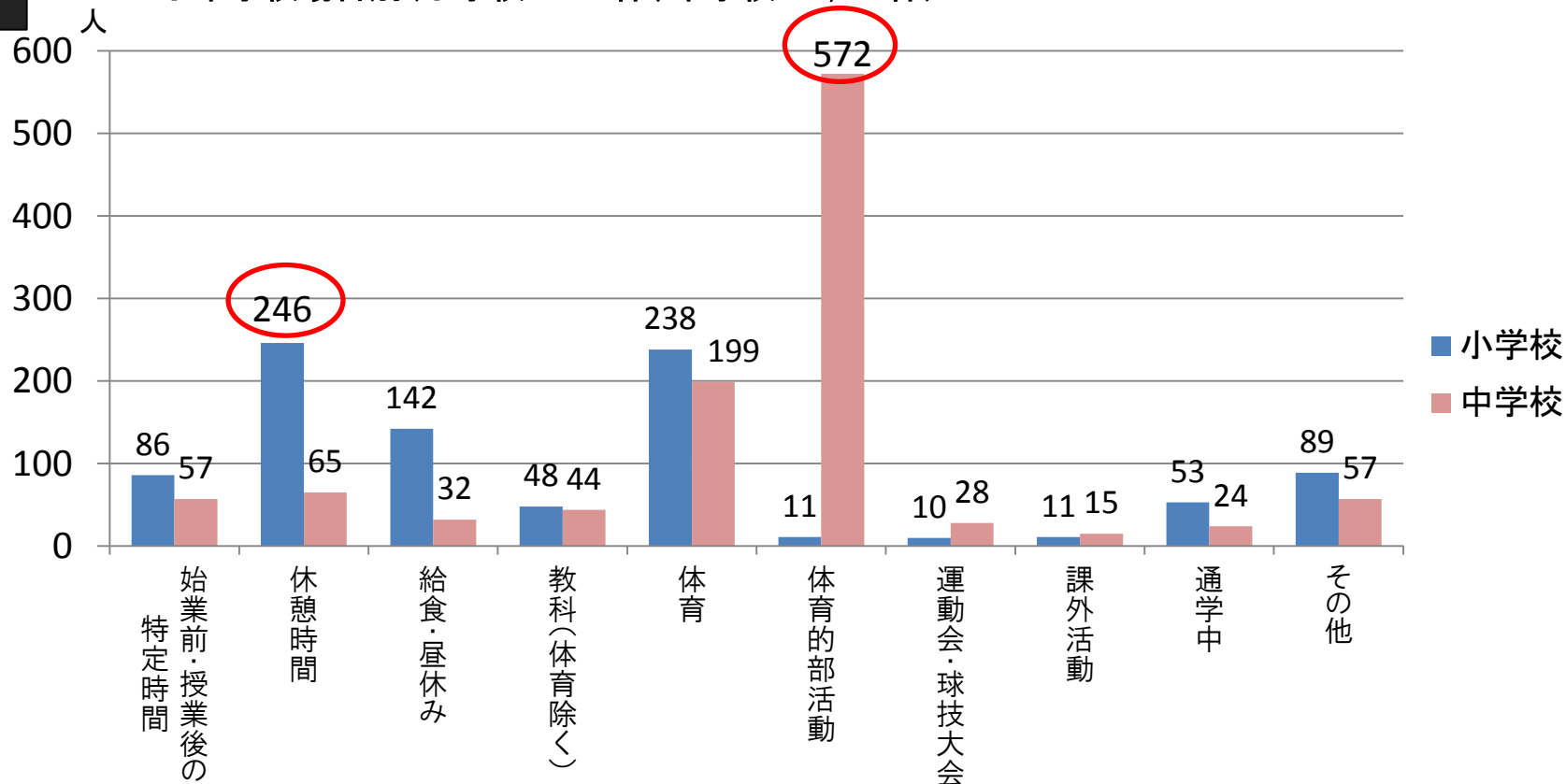
# データからみた客観的な危険(4)

## 小・中学校における場合別のケガの発生状況

小学校における場合別のケガの発生状況は、「休憩時間」が最も多く、中学校では、「体育的部活動」が最も多くなっています。

図7

小中学校場合別(小学校n=934件、中学校n=1,093件)

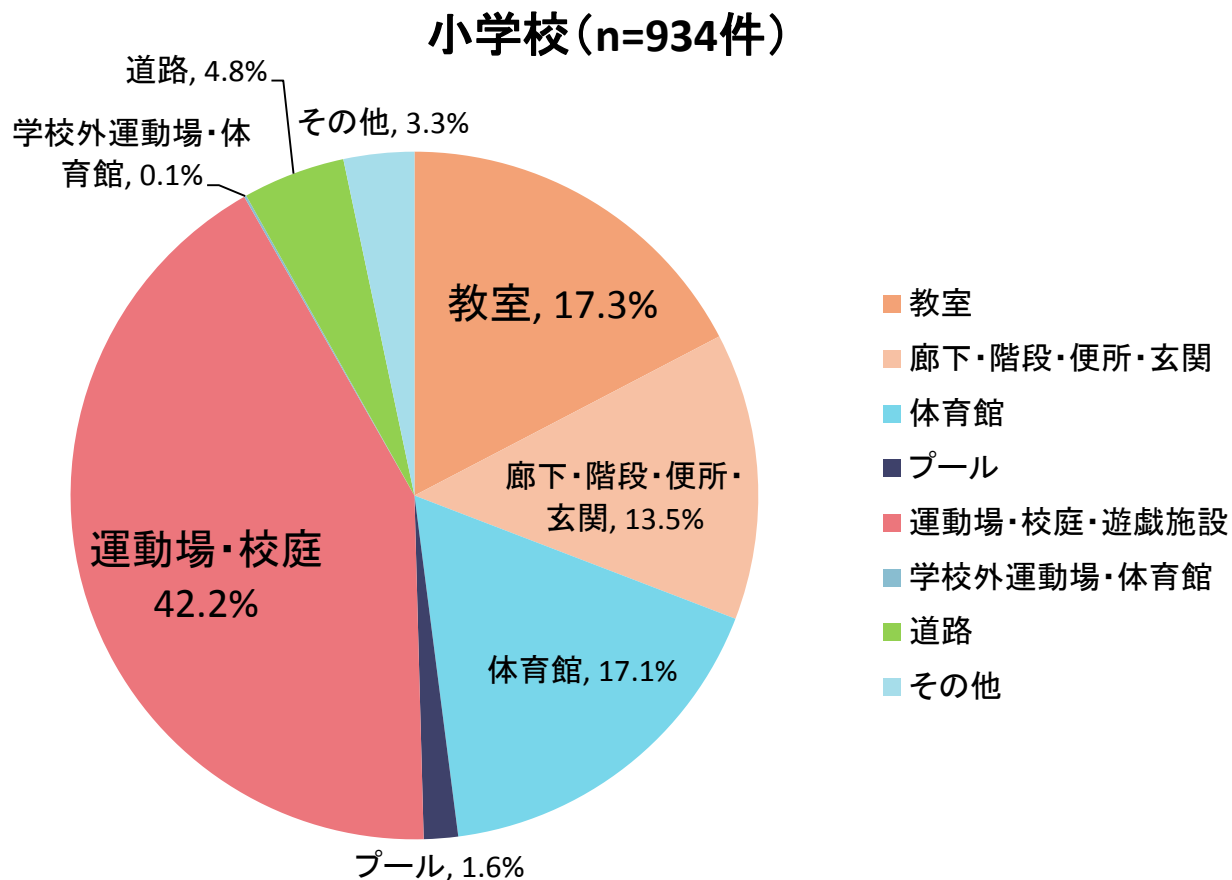


# データからみた客観的な危険(5)

## 小学校におけるケガの場所別の発生状況

小学校における場所別のケガの発生状況は、「運動場・校庭」が最も多く全体の4割以上を占めています。

図8



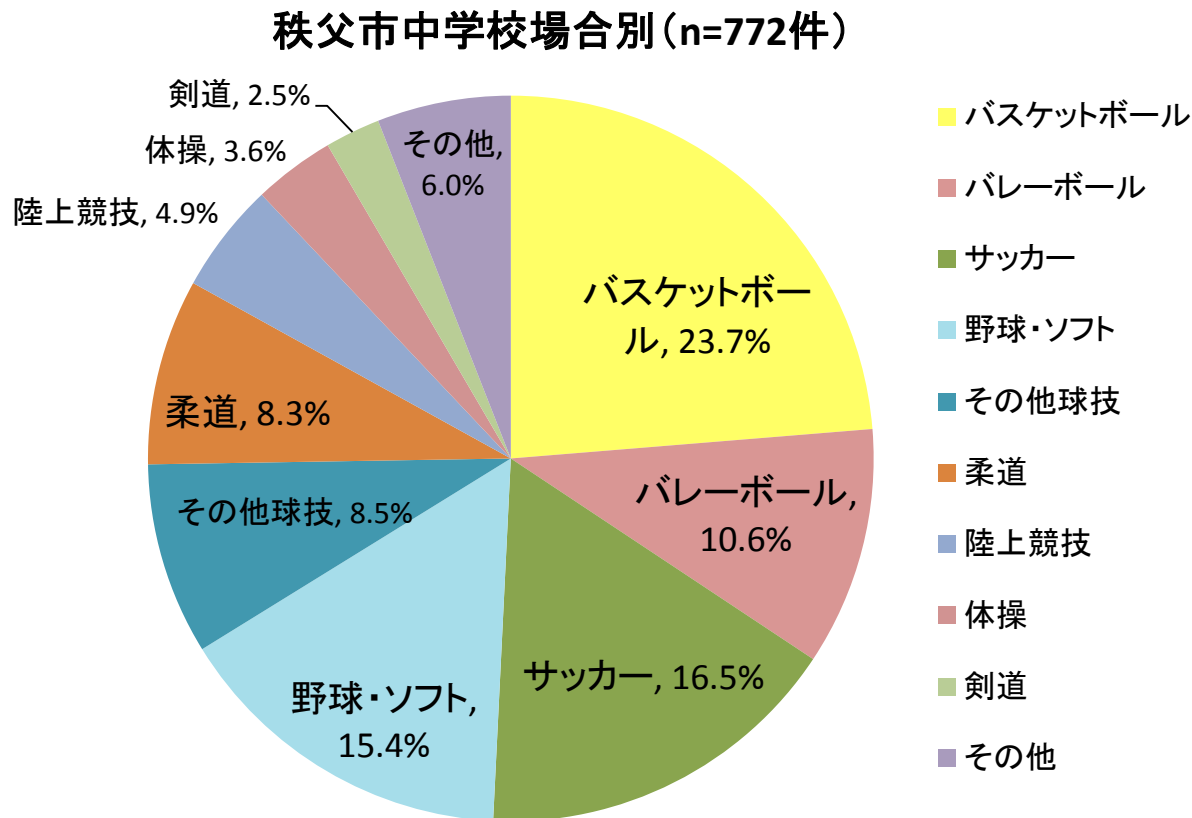
出典: 日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度~2010年度)

# データからみた客観的な危険(6)

## 中学校におけるケガの場合別の発生状況

「バスケットボール」が最も多く約24%、次いで「サッカー」、「野球・ソフト」、「バレーボール」と、球技におけるケガが多くなっています。

図9





# データからみた客観的な危険(7)

## 【再掲】

### ネットトラブル・いじめの認知状況

○ネットトラブル

2012年度 小学校が2件、中学校が13件(中学校で急増)。

○いじめの認知件数

2012年度 小学校が47件、中学校が85件(小・中学校とも急増)。

図4-1

ネットトラブルの報告件数

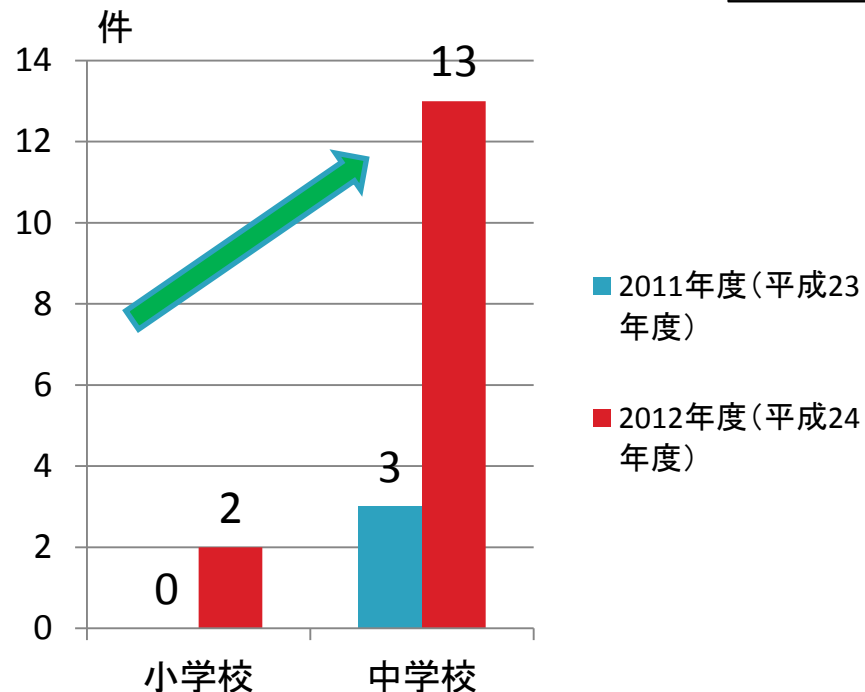
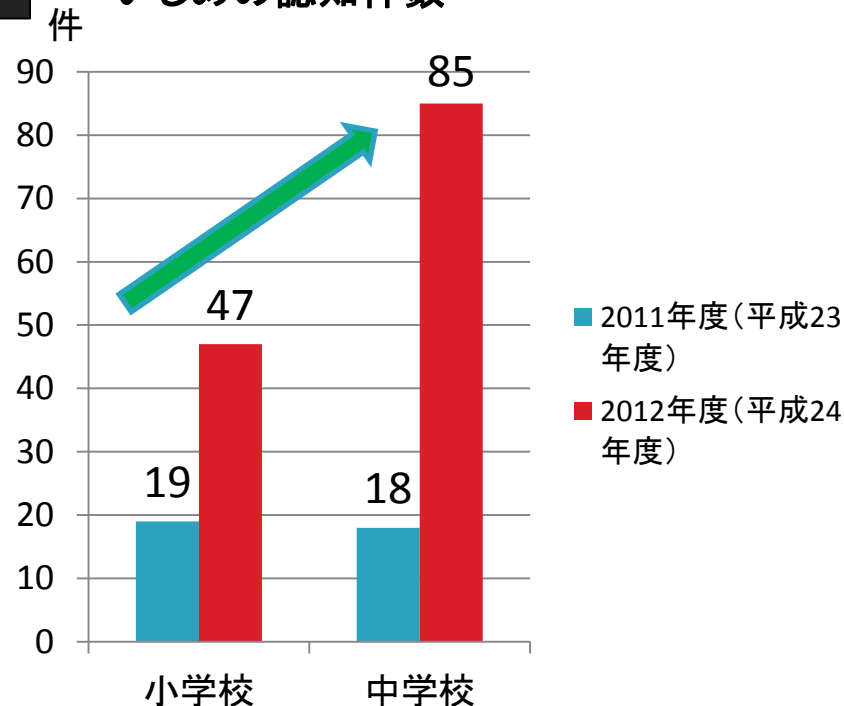


図4-2

いじめの認知件数



# ワークショップによる課題の整理

図1

図2

図3

図4-1

図4-2

図5

図6

表1

図7

図8

図9

課題1 子どもはケガが多い  
○学校・保育所・幼稚園や家庭内でのケガが多い  
○中学生は特に部活動でのケガが多い

課題2 子どもの自転車運転中の外傷が多い  
○通学マナーが悪くなっている  
○自転車の事故が多い

課題3 ネットトラブルの増加  
○スマホによるいじめが増加している(心配)

課題4 いじめ認知件数の増加  
○いじめの認知件数が増加している

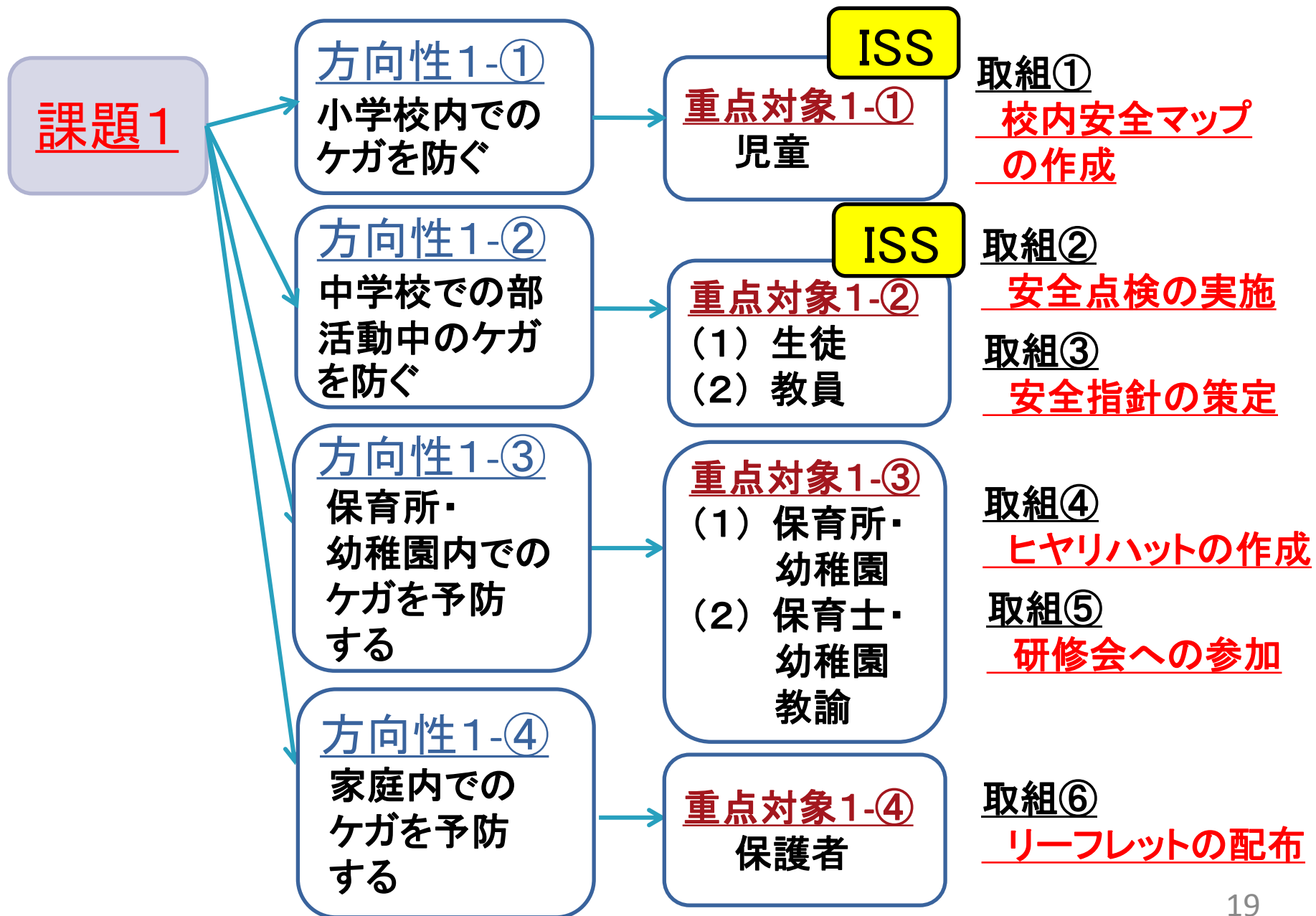
課題5 地域のつながりが希薄になっている  
○地域活動に参加していない保護者が多い

方向性  
1

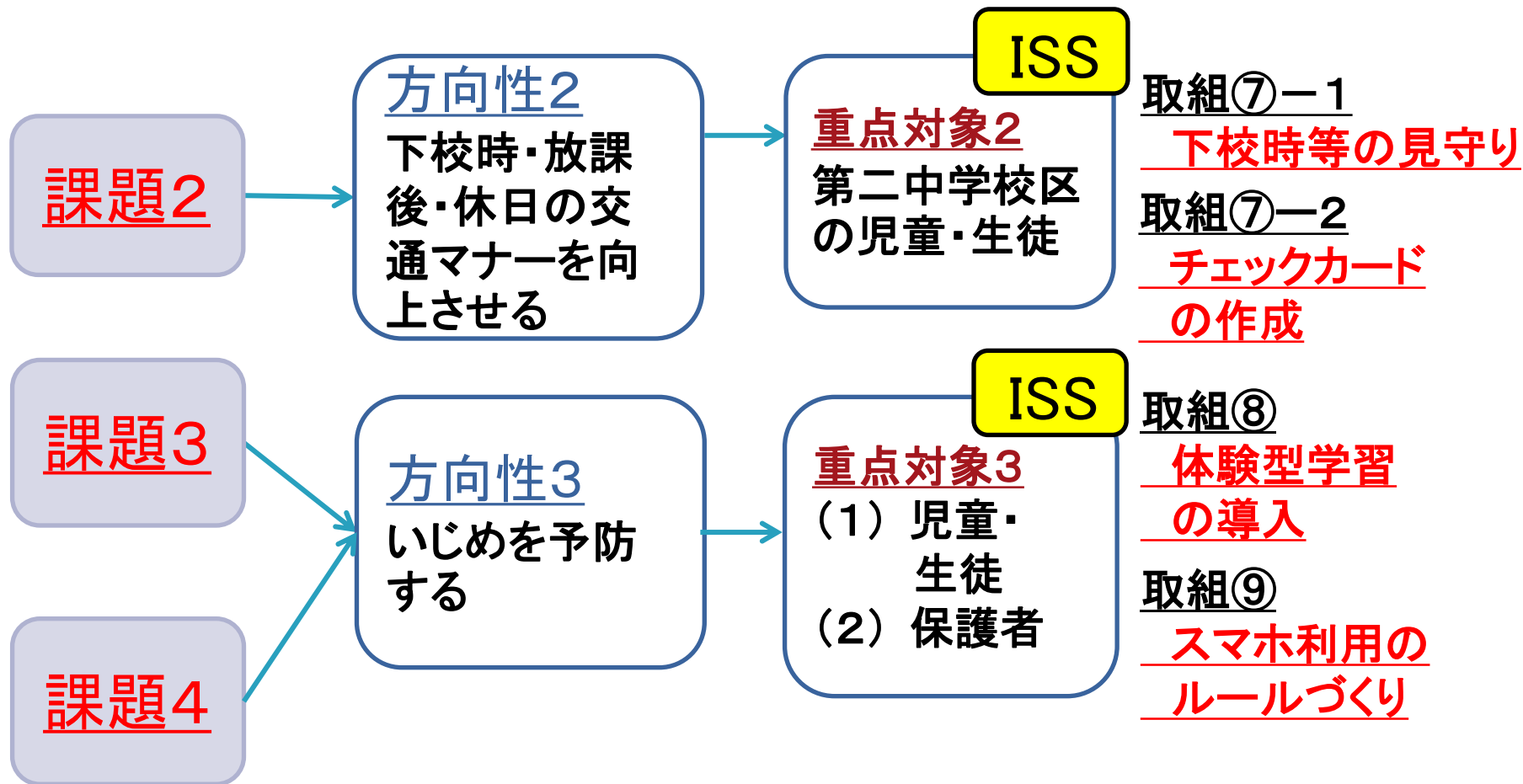
方向性  
2

方向性  
3

# 課題、方向性、重点対象、取組の整理①



# 課題、方向性、重点対象、取組の整理②



# 小学校内でのケガを防ぐ

## 取組み①

ISS

## 校内安全マップの作成

改善

子ども自身による認識

- ①児童がケガをした場所をマップに書き込む。
- ②「なぜケガをしたのか」、「どうすれば防げたのか」について、児童自身で考える。
- ③情報を共有する。

2014年度～  
本格実施

### 南小学校のケガマップ



SCでの気づき→

子ども自身による危険の認識が重要

# 中学校での部活動中のケガを防ぐ

改善

## ・取組み②

ISS スポーツ安全点検の実施

生徒の安全  
点検への参加

教員と生徒と一緒に、中学校の部活動で使用する器具や設備、危険箇所等の点検を実施する。

### 危険個所の確認

- どこでケガをしているのか？
- いつケガをすることが多いのか？

### 器具の安全点検

- どのようなケガをしているのか？
- 正しい使い方をしているのか？

SCでの気づき→

教師だけでなく生徒と一緒に点検することが大切  
(期待)

# 中学校での部活動中のケガを防ぐ

新規

## ・ 取組み③

ISS

## スポーツ安全指針の策定

部活動ごとに指針作成

### 取組みのイメージ

生徒と教師が協力して、中学校の部活動ごとに安全指針を策定する。

準備運動、練習方法、整理運動、設備の利用方法など、生徒の視点で考える。

準備

- 健康観察、準備運動の徹底
- 安全点検の実施

練習

- 練習メニューの再検討
- 顧問の指導力の向上

終了

- 整理運動の徹底
- 器具のメンテナンス

SCでの気づき→

生徒自身が参画することで、安全意識が高まることが期待される

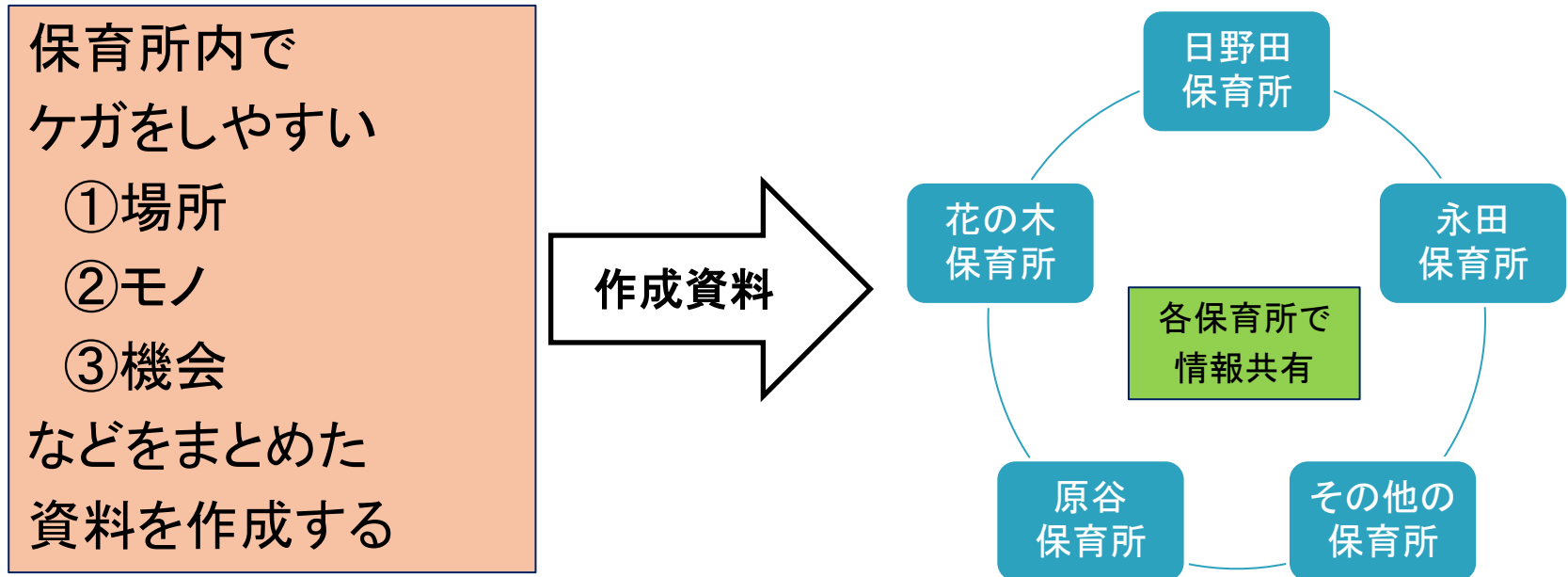
# 保育所・幼稚園内でのケガを予防する

## 取組み④ ヒヤリハット集の作成

改善

保育所間で  
情報を共有

各保育所が、保育所内でケガが発生しやすい場所などをまとめた「ヒヤリハット集」を作成します



SCでの気づき→

保育所間での情報共有不足

ベテラン保育士の知識が生かされていない



# 保育所・幼稚園内でのケガを予防する

## • 取組み⑤

### 危機管理研修会

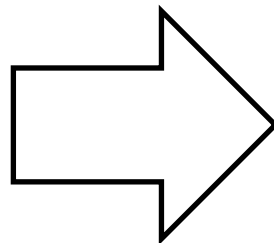
改善

研修参加者を  
増やす

子どもの命を預かる  
重要性を認識する必要  
がある。

保育士一人ひとり  
に対する安全教育を徹底  
する。

2013年度参加者数  
56人



### 危機管理研修 への参加

- ・目を離さない
  - ・幼児の視点
  - ・災害訓練の実施
- など、具体的な内容の研修

SCでの気づき→

保育所内での安全確保の重要性を再認識した

# 家庭内でのケガを予防する

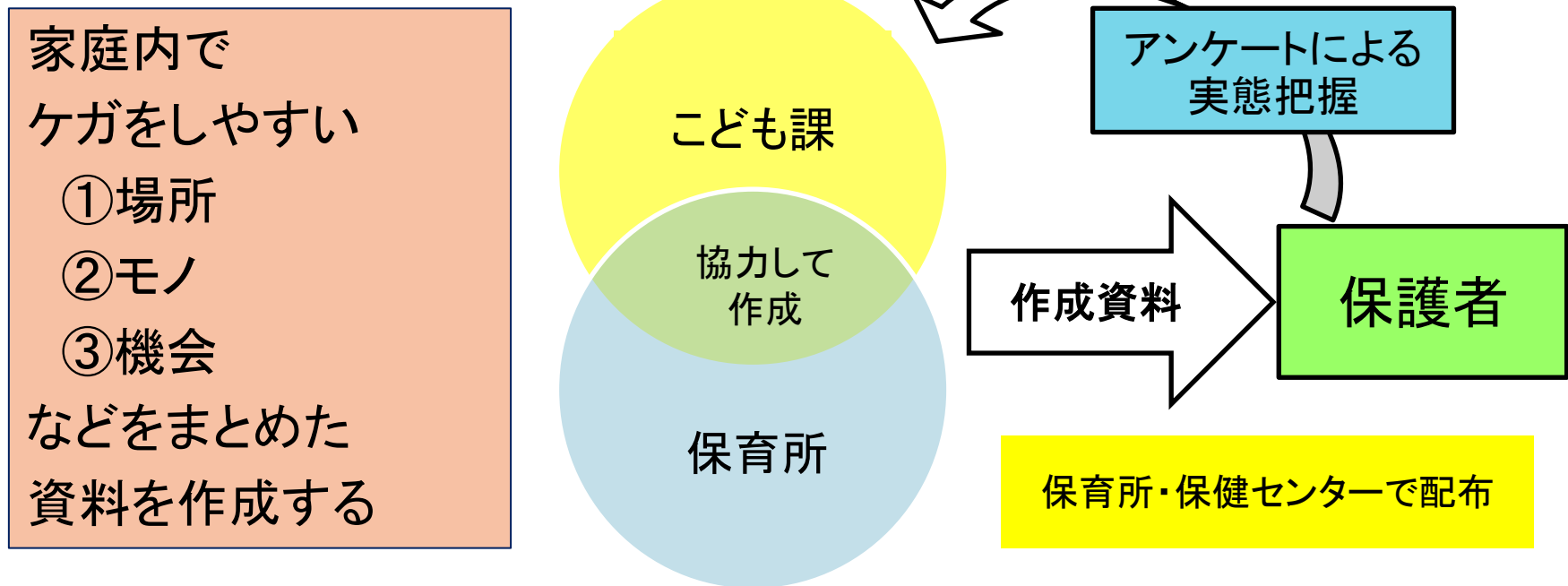
新規

## ・ 取組み⑥

### 家庭内ケガ予防マップの配布

保護者の  
注意を促す

家庭内でケガが発生しやすい場所などをまとめたリーフレットを作成し、各保育所・保健センターが保護者に配布します。



SCでの気づき→

家庭でのちょっとした注意でケガを防げるはず

# 下校時・放課後・休日の交通マナーを向上させる

## ・ 取組み⑦-1

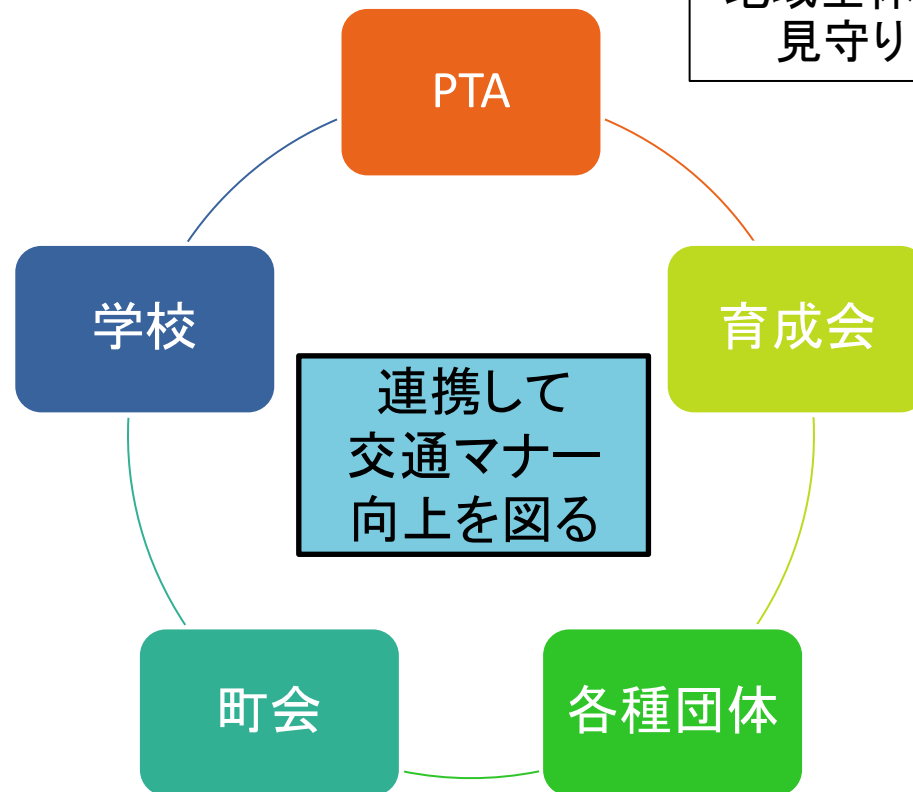
### ISS 学校サポーターや各種団体による見守り

改善

地域全体で  
見守り

学校サポーターやPTA、教員だけでなく、育成会、スポーツ少年団、町会など、地域の人たちに見守り活動に協力してもらう。

特に、下校時・放課後・休日の見守りを強化。



SCでの気づき→

放課後や休日などの交通マナーが悪い⇒危険なのは？

# 下校時・放課後・休日の交通マナーを向上させる

## ・ 取組み⑦ー2

新規

交通マナー  
をチェック

ISS チェックカードの作成

- ①交通マナーを学校サポーターがチェック。
- ②安全講習会に反映

交通マナー  
チェックカード  
学校サポーター  
が記入する

交通安全講習  
会の開催  
児童・生徒が交通  
マナーを学ぶ

交通  
マナー  
の向上

SCでの気づき→

交通マナーが悪いという意見が多かったが、データがない。

# いじめを予防する

## ・ 取組み⑧

ISS

ライフスキル教育の充実

改善

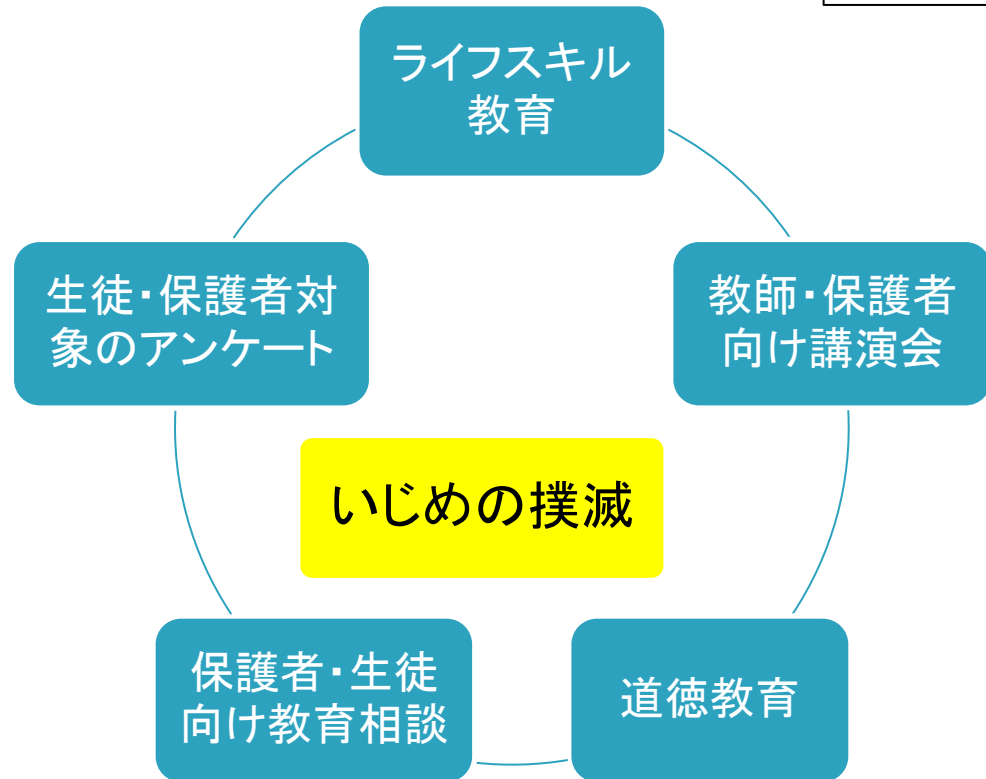
体験型学習  
の導入

①子ども

ライフスキル教育  
心の教育の充実

②保護者や教師

専門家による講演会



SCでの気づき→

子ども自身に考えさせる機会を設ける

# いじめを予防する

新規

## ・ 取組み⑨

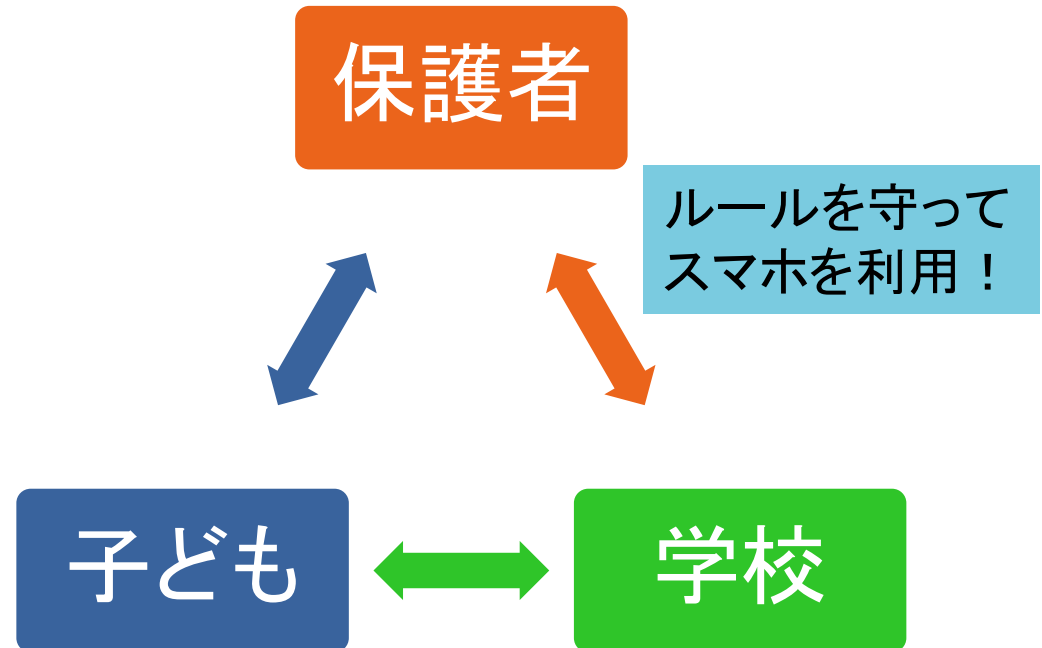
ISS

スマホ利用のルールづくり

ルールづくり

いじめにつながっている、「スマートフォン」の利用について、ルールづくりを進める。

子ども・保護者・学校との間でのルールを考える。



SCでの気づき→

スマホを持たせないことは難しい。子どもと保護者・学校で約束をした上で利用させたい。

# 現時点での問題点・困難な点

## 1. 全体に関すること

セーフコミュニティとセーフスクールの連携をどのように行うか。

## 2. 取組み⑦

小・中学生、高校生の交通安全については、交通安全対策委員会と連携して取り組む。

## 3. 今後の方向性

成果指標については、今後検討します。



ありがとうございました！